

# TOKYO COLLEGE

主催:東京大学国際高等研究所東京カレッジ

## Shaping a Shared Future Together

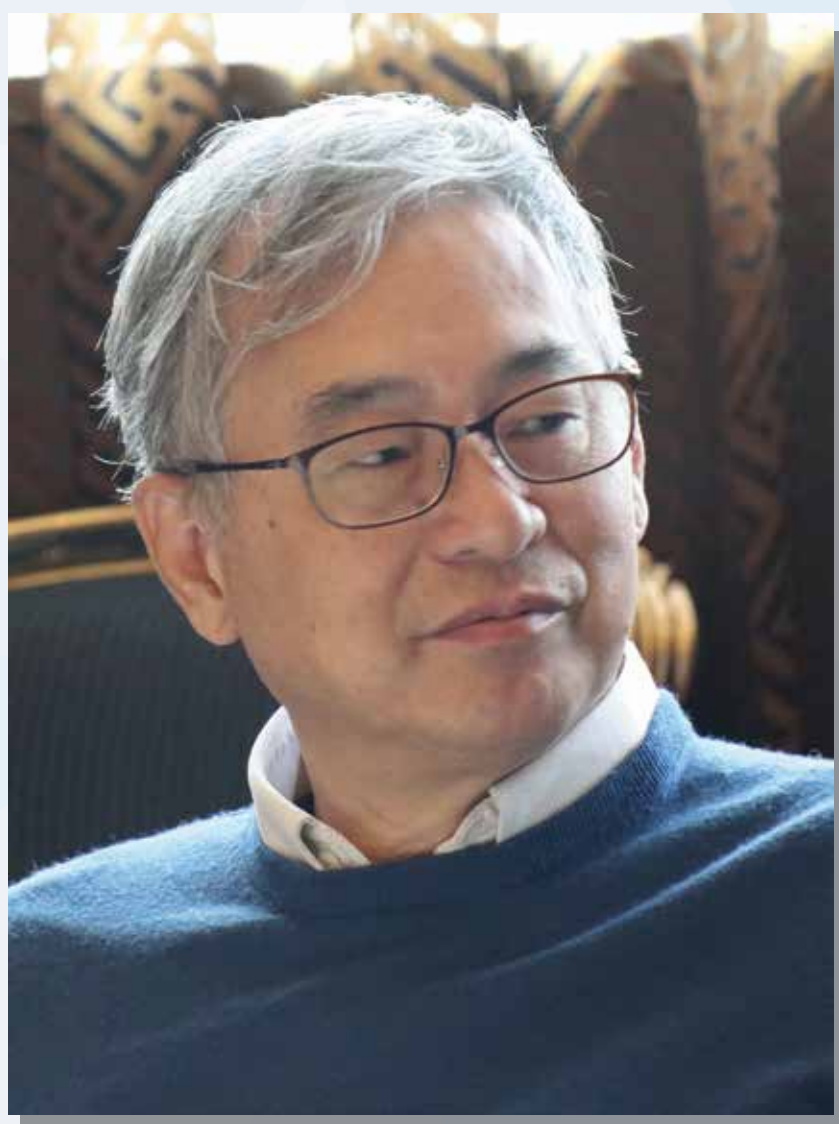
共に考える。未来のかたち

東京カレッジ講演会 Tokyo College Event

## 伝統的な中国史学における「世界史」

講師:葛兆光 (東京カレッジ特任教授、復旦大学特別招聘教授)

2020年8月27日(木) 17:00 より東京カレッジYouTubeチャンネルにて視聴可能(予定)



葛兆光: 1984年北京大學大学院修士課程(古典文献学)修了、1992年に清華大學教授(歴史学)、2006年に復旦大學特別招聘教授。京都大學(1998年)、東京大學(2015年)、プリンストン大學(2011~2013年)、シカゴ大學(2015年)客任教授。東アジア、中国の思想史・文化史・宗教史を研究。

PLAY

視聴方法:東京カレッジYouTubeチャンネル  
<https://www.youtube.com/channel/UCGI2NUAxXMyN8-Up3n4piaQ>

講演

葛兆光 (東京カレッジ特任教授、復旦大学特別招聘教授)  
言語:中国語音声、日本語字幕

この講演では、中国の伝統的な史学において、世界がどのように認識され、世界史がどのように語られていたのかについて議論する。『史記』が紀元前2世紀に成立して以来、中国では「中央王朝を中心とし、周辺四裔を附庸とする」世界の見方および世界史の語り方が形成された。この後二千年余りの過程で、変化をもたらさうる三つの契機があったが、結局変化は実現されなかった。しかし、19世紀半ばの西潮東漸以後、この伝統的な史学は根底から揺らぎ始めた。新しい世界認識や世界史は歴史教科書に取り入れられ、やがて新しい常識となり、伝統的な史学におけるそれらに取って代わった。



大塚修: 東京大学大学院総合文化研究科准教授。2012年東京大学大学院博士課程単位取得退学。博士(文学)。専門は中東イスラーム地域史。伝統的な歴史叙述やその受容・継承の在り方を分析対象としながら、中東地域の歴史と文化を研究している。著書に『普遍史の変貌』(名古屋大学出版会、2017年)がある。

対談

葛兆光 x 大塚修 (総合文化研究科准教授)  
言語:中国語・日本語(逐次通訳付)



東京大学に新しく設立された「東京カレッジ」。世界の第一線で活躍する研究者や知識人を招き、市民の皆さんと一緒に未来社会の様々な側面について考える場を作ります。  
Tokyo College aims to generate new knowledge to contribute to the creation of an inclusive society and spark deeper public engagement with the University.



Discover Excellence.



facebook twitter